

Title	C.C.W. Taylor教授講演会 : Aristotle on Eudaimonia
Sub Title	
Author	納富, 信留(Notomi, Noburu)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2007
Jtitle	活動報告書 Vol.1, (2007.) ,p.22- 22
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章 : シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20080300-0022

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

8

C.C.W.Taylor 教授講演会

Aristotle on Eudaimonia

開催日 2007年11月5日
 企画班 論理・情報班
 企画者 納富信留
 講演者 C.C.W.Taylor (オックスフォード大学名誉教授)

クリストファー・テイラー教授は、古代ギリシア哲学の研究において長年世界をリードされてきたオックスフォードの碩学で、原子論者、ソクラテス、プラトン、アリストテレスについて代表的な研究書を出版されている。これまで韓国で講演する機会をもっておられたが、今回はその折に日本にも足を延ばしていただき、東京での初講演となった。主題は「アリストテレスのエウダイモニア論」で、20名ほどの聴衆と活発な議論を交わされた。特に学生からの質問を求められるなど、温厚な教育者としてのお人柄にも接することができた。

アリストテレス『ニコマコス倫理学』の主題である「エウダイモニア」——通常「幸福」happinessと訳されるが、そういった近代語訳がもつ問題性も指摘された——の理解は、それが様々な善きものの総合であるか (inclusive)、単一の善を専らに目指すものか (dominant) で、研究者間の論争が続いてきた。テイラー教授は、議論の流れを慎重に分析されながら両解釈を調停し、アリストテレス倫理学の全体像を『政治学』も射程に入れながら示された。とりわけ興味深かったのは、「フロネーシス」

(賢慮) に二重の重要な役割を見る解釈で、バランスのとれた刺激的な読み筋に視野を啓かれた。

講演会では、事前にペーパーを配布できなかったため、綿密な議論に対して詳細に立ち入った質疑ができなかったことがやや残念ではあるが、古代ギリシアの専門研究者だけでなく、隣接分野の方々や学部学生からも大きな文脈で疑問を提示していただき、楽しく有意義な議論ができた。主催者として感謝申し上げたい。

(納富信留)

